

江戸町方共



160
188

160-188



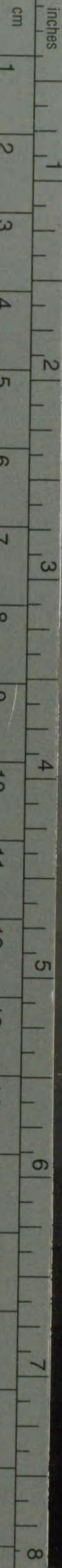
1200800025524

Kodak Gray Scale



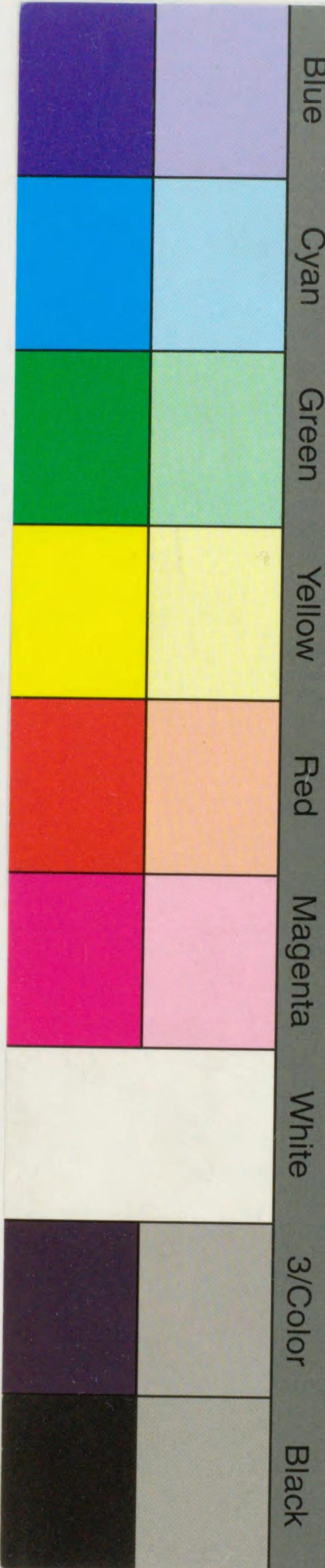
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



160
188

佐久間長敬
監修

江戸町方與力

全

江戸町方與力

元町方與力佐久
全 安藤源堂
全 尾崎鑿之助
全 仁杉太郎八郎
全 原 弥三郎

編著

大正七年稿

大正十三年四月寄贈 原胤昭



監修
原胤昭



戶町方與力

元町方與力佐久間彌太吉長敬

監修

全 安藤源五衛門親枝

全 尾崎繁之助將榮

全 仁杉五郎八郎 英

編著

原 弥三郎胤昭

原氏

寄贈本



大正七年 稿

大正十三年四月寄贈

原胤昭

也

南方

維新當時勤務與力氏名

同上凡見習勤

(以下は順)

稻澤弥兵衛

中田潤之助

佐野武郎

加藤陽之助

蜂屋熊之助

中田元吉

佐久間弥吉

加藤又左衛門

原 弥三郎

中村八郎左門

由比方太郎

加藤新左門

徳岡秀次郎

中村又藏

仁杉八重門

金子恒三郎

蜂屋新五郎

村井真之進

同 五郎郎

谷村官太郎

小原清次郎

山崎助太郎

同 八之助

同 八之助

同 小十郎

小林藤平

北方

谷村順助

同 西助

安藤源之進

磯貝銳次郎

高橋銀十郎

萩野源三郎

同 貞五郎

服部徳之助

都筑十左門

吉田忠次郎

安藤源左門

尾崎三藏

中村三左門

吉田駒次郎

安達礼輔

同 繁之助

中山源左門

中山

同 彦四郎

以上

中島錦一郎

右ノ外幕末

松浦安五郎

多事ノ時ニ際シ

松原晋三郎

特ニ與力ノ資

藤田六郎門

格ヲ以テ勤務

後藤谷三郎

ニ當レタル

秋山久藏

日横山善兵衛

同 為吉

アリ

三好助左門

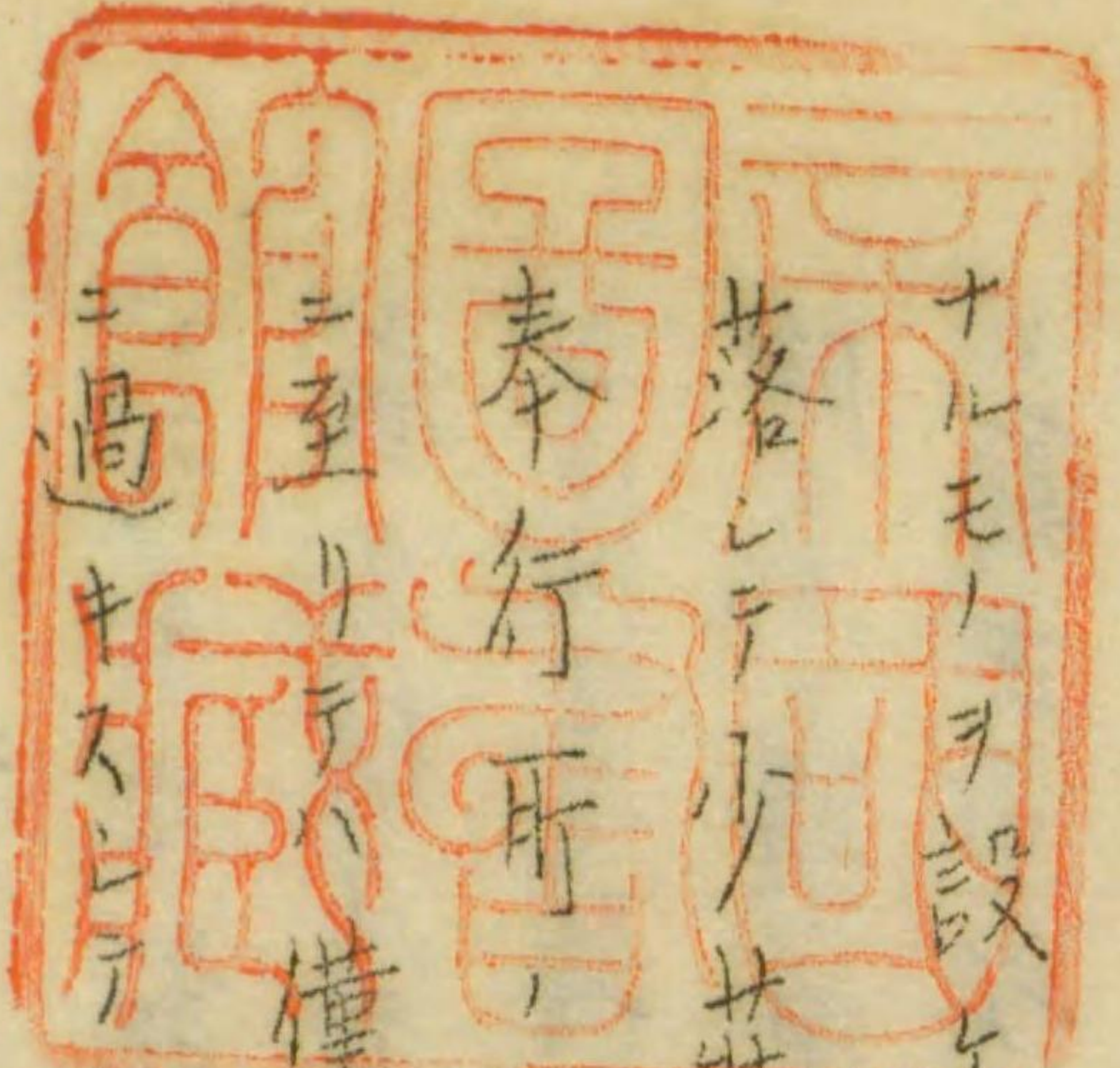
同 富士郎

三村吉兵衛

島 佐太郎

下村弥助

緒言



旧幕府江戸町奉行ニ隷屬シ江戸市政ノ衝ニ當リタル
モ、旧ヲ談シ新ヲ話シ以テ交誼ヲ温ムル為メ當日テ南北會

ナルモノヲ設ケ 歲次會合シタルモ歲月ノ經過ト共ニ多クハ凋
落シテ少シクハ子弟ノニナリ祖先以來ノ事業タル江戸町

奉行所ノ組織及其執リ來リタル事務ノ如何ナル乎
ニ至リテハ權カニ父祖ノ夜話ノ耳底ニ止マルニ三人ノ断片尼

ニ過キテハ會々記録ノ圖書館等ニ存スルモノアリト虽
モ其事ニ當ラサリシ者ノ調査研究ハ摸索ト一般徒ラニ

精力ヲ盡スルニテ真相ヲ得ルニ難ク終ニ揣摩臆断ノ弊ニ
陥ルニ至ラン是ニ於テ當時所奉行所ノ豫ニ上リ市政鞅掌

ニ現ニ餘喘ヲ保スル佐久間長敬安藤親枝尾崎將

(一) 江戸所奉行ノ創設ト其歴代

所奉行任命ノ年月日ハ江戸所奉行所ニ奉行前録ト称スル記録アリシカ此書ハ明暦大火後ニ編輯シタルモノニシテ四種アリテ其以前ニ係ル部分ハ區々ナレトモ何レモ大同小異ニシテ皆始メニ神田政時ヲ記シアレハ之ヲ以テ所奉行ノ始ト思惟スルモノアレトモ他ノ旧記録ニ照スニ政時及ヒ考坂直通山岸助兵衛等ノ如キハ素ト徳川氏譜代ノ臣下ニ非ス小田原北條氏ノ地奉行ニシテ小田原没落後関東ノ地徳川氏ニ屬セラレタル際民政ノ便宜為召出サレ地方政ノ一部ヲ擔任セシメラレタルモノニシテ新領地總体ノ事ハ旧領地地奉行板倉勝重ヲシテ管掌セシメタルモノト如シ關ノ原ノ役起ルニ際ニ板倉勝重加藤

正次ニ與力同心ヲ附屬シ江戸城下ヲ守ラシメ始テ江戸所奉行ノ称アリ然レ其管スル所ハ関東一体ニシテ家光公時代ニ至リテ職制ヲ定メラレ所奉行堀正之加々爪忠澄ヲシテ市井ノ事ノ一ヲ管シ地方ニ關スル事ニ至テハ御勘定奉行ヲ置キ之ヲ管セシメ始メテ市政ト地方政トノ區分ヲナシタリ是ヨリ南北所奉行所ノ称起リ家綱公時代ニ奉行一人ヲ増シ南北中ノ称アリ吉宗公時代ニ至リ奉行一人ヲ減シ復タ南北ノニテ所トナリタリ而シテ其ノ奉行ノ任免順序左ノ如シ

板倉四郎左衛門勝重 後伊賀守

天正十八年八月一日徳川家康公関東入國ノ際供奉シ江戸ニ入り新領地ノ民政ヲ司ル慶長五年十月與

力十人同心五十人ヲ附屬セルメテ江戸所奉行ニ任セラレ關東ノ民政ヲ司ル同六年月京都所司代トナル

神田與兵衛正時

彦坂小刑部直通

岸助兵衛

何レモ北條家ノ由臣ニシテ國家没落後召出サレ地奉行トシテ民政ニ與リタリ

加藤嘉左衛門正次

慶長五年五月板倉勝重ニ副トシテ關東ノ民政ヲ司ル後勝重ト共ニ京都ニ上ル

内藤修理亮正次

慶長六年板倉勝重ニ代リ江戸所奉行ニ任セラレ慶長十一年五月謹ク蒙リ免職閉門セラレ

青山常陸介忠成

慶長六年()月加藤嘉左衛門正次ニ代リ所奉行トナリ同十年正月秀忠公ノ上洛ニ供奉ニ同六月歸府復職同十一年五月内藤信成ト共ニ免職閉門セラ

米津勘兵衛由政

慶長十年正月青山忠成上洛ノ節代リ所奉行ニ任セラレ同六月忠成復職ニ由リ罷メラレ同十一年五月忠成免職後再任セラレ寛永元年十一月病死ス

土屋權右衛門重成 後兵部少輔 同十年

慶長十一年五月内藤正成ニ代リ所奉行トナリ同十年
五月辞職ス

嶋田兵四郎利政 後彈正忠
慶長十八年五月土屋重成ニ代リ所奉行トナリ寛永元
年米津由政病死後任ヲ定メラレス利政一人ニテ事務
ヲ取ル同八年九月職ヲ辞ス

同南所奉行所系 始メ八種洲河内岸ニ在リ後常盤橋内ニ
青山常 移リ北ニ称アリレカ寛永四年數寄屋橋
十一月五日 内ニ移轉シテ亦南ト称セラル

武部少輔直之 同南所奉行所系 始メ八種洲河内岸ニ在リ後常盤橋内ニ
青山常 移リ北ニ称アリレカ寛永四年數寄屋橋
十一月五日 内ニ移轉シテ亦南ト称セラル

寛永八年九月所奉行ニ任セラレ同十五年四月大目付ニ
轉ス

酒井因幡守忠知

寛永十五年五月作事奉行ヨリ任セラレ同十六年五
月讚ヲ蒙リ改易セラレ

朝倉仁左衛門 在重 後石見守

寛永十六年七月御使番ヨリ任セラレ慶安三年十一月
病死

石谷十藏貞清 後左近將監

慶安四年九月御先手鉄砲頭ヨリ任セラレ萬治二年
正月辞職ス

村越治左衛門言勝 後長門守

萬治二年二月御勘定奉行ヨリ任セラレ寛文七年閏二月辞職ス

嶋田久太郎忠政 後出雲守

寛文七年閏二月寄合ヨリ任セラレ天和元年三月謹ヲ

蒙リ被職セラル

北條新藏氏平 後安房守

天和元年四月御持子頭ヨリ任セラレ元禄六年十二月

御留守居ニ轉ス

川口攝津守宗恒

元禄六年十二月長崎奉行ヨリ任セラレ同十一年十月

免職セラル

保田美濃守宗郷 後越前守

元禄十一年十二月大坂所奉行ヨリ任セラレ宝永元年御留守居ニ轉ス

松野河内守易義 後彦岐守

宝永元年十月大坂所奉行ヨリ任セラル宝永四年

役所ヲ数寄屋橋内ニ移サル享保二年二月職ヲ辞ス

大岡能登守忠相 後越前守

享保二年二月御普請奉行ヨリ任セラレ元文元年

八月寺社奉行ニ轉ス

松波筑後守正春

元文元年八月御勘定奉行ヨリ任セラレ同四年九月

目付ニ轉ス

水野備前守忠為

元文四年九月御作事奉行ヨリ任セラレ同五年十

二月病死ス

元文五年十二月京都所奉行ヨリ任セラレ延喜子三

年六月病死ス

延喜三年七月京都所奉行ヨリ任セラレ寛延三年

正月病死ス

寛延三年三月御作事奉行ヨリ任セラレ寛曆三年

十二月病死ス

寛延三年三月御作事奉行ヨリ任セラレ寛曆三年

十二月病死ス

寛延三年三月御作事奉行ヨリ任セラレ寛曆三年

寛曆三年十二月京都所奉行ヨリ任セラレ明和五年

五月病死ス

明和五年五月御勘定奉行ヨリ任セラレ天明四年三

月六月付へ轉ス

山村信濃守良昭

天明四年三月御勘定奉行ヨリ任セラレ寛政元年

九月宮内卿殿家老へ轉ス

池田筑後守長惠

寛政元年九月京都所奉行ヨリ任セラレ同七年六

月大目付へ轉ス

坂部能登守廣高

寛政元年九月京都所奉行ヨリ任セラレ同七年六

寛政七年六月大坂所奉行ヨリ任セラレ同年九月
西丸御留守居ニ轉ス

寛政八年九月御目付ヨリ任セラレ同十年十月病死

天保根岸肥前守鎮衛

寛政十年十一月御勘定奉行ヨリ任セラレ文化十
二年十一月病死ス

文化十二年十一月御勘定奉行ヨリ任セラレ文政三年

二月大目付ニ轉ス

荒尾但馬守成章

文政三年三月大坂所奉行ヨリ任セラレ同四年正月
辭職ス

筒井和泉守政憲 後伊賀守又紀伊守

文政四年正月長崎奉行ヨリ任セラレ天保十二年四月
西丸御留守居ニ轉ス

矢部左近將監定謙 後駿河守

天保十二年正月小普請支配ヨリ任セラレ同年十二
月免職セラレ

鳥居耀藏忠耀 後甲斐守

天保十二年十二月御目付ヨリ任セラレ同十四年八月
御勘定奉行ニ兼任同年八月兼任又解カレ同十

五年九月六日辭職ス

跡部能登守良弼

天保十五年九月大目付格御勘定奉行ヨリ任セラレ

弘化二年三月御小姓組番頭ニ轉ス

遠山左衛門尉景元

弘化二年三月大目付ヨリ任セラレ再勤ニ付上席嘉

永五年三月辭職ス

池田播磨守頼方

嘉永五年三月御勘定奉行ヨリ任セラレ安政四年

十二月大目付ニ轉ス

伊澤美作守政義

安政四年十二月大目付ヨリ任セラレ同五年十月大

目付ニ轉ス

同九年九月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

同十四年八月

池田播磨守頼方

安政五年十月大目付ヨリ任セラレ再勤ニ付上席

同六年二月御勘定奉行ニ兼任同年十二月兼

任ヲ解カレ萬延元年五月辭職ス

里川備中守盛泰

萬延元年五月御目付ヨリ任セラレ文久二年十月免

職セラレ

小栗豊後守忠順

後上野介
文久二年十月御勘定奉行ヨリ任セラレ同三年八月

免職セラレ

井上信濃守清直

文久三年八月外國奉行ヨリ任セラレ同年十一月免

職セラハルハ長國奉行ヨリ任セラレ同平十一月

佐々木信濃守清道

文久三年十一月御勘定奉行ヨリ任セラレ元治元年七月外國奉行へ轉ス

松平石見守康道

元治元年七月十六日御勘定奉行ヨリ任セラレ同年十一月本家棚倉城主松平周防守跡目相續ヲ命セラレ免職

有馬出雲守則篤

元治元年十一月御勘定奉行ヨリ任セラレ慶應元年五月大目付へ轉ス

根岸肥前守衛奮

慶應元年五月御勘定奉行ヨリ任セラレ同年十一月大目付へ轉ス

山口駿河守直亮

慶應元年十一月大目付ヨリ任セラレ同二年八月步兵奉行へ轉ス

有馬阿波守則篤

慶應二年八月大目付ヨリ任セラレ同年十月勤仕並寄合へ轉ス

駒井相模守信興

慶應二年十月勤仕並寄合ヨリ任セラレ同三年三月御勘定奉行ニ兼任セラレ同五年兼在ヲ解カレ四年正月陸軍奉行並轉ス

黒川近江守盛恭

慶應四年正月隱居

留居ニ轉ス

松浦越中守信宣

慶應四年三月御目付

辭ス

佐久間鑄五郎信義

慶應四年三月御目付

辭ス

北野奉行所ノ系

始メ

鍛冶橋内ニ設ケラレ

中ノ称アリ

カ吉子保四年

常盤橋内ニ移サレ

北ノ称

アリ

文化三年

吳服橋内ニ移サレ

高

北ノ称アリ

以テ近代ニ至ル

丹羽遠江守長守

元禄十五年閏八月

長崎奉行ヨリ新ニ所奉行ニ

任セラレ

所奉行三人トナリ

鍛冶橋内ニ役所ヲ設ケ

正徳四年^{正月}辭職ス

中山出雲守時春

正徳四年正月御勘定奉行ヨリ任セラレ

カ吉子保四年

役所ヲ常盤橋内ニ移ス

同八年六月辭職ス

諏訪肥後守頼篤

後美濃守

享保八年七月京邸

所奉行ヨリ任セラレ

同十六年

九月左衛門督殿家老ニ轉ス

稻生下野守正成

享保十六年九月御勘定奉行ヨリ任セラレ元文三年二月大目付へ轉ス

石河土佐守政朝

元文三年二月御普請奉行ヨリ任セラレ延享元年六月大目付へ轉ス

能勢甚四郎頼一 後肥後守

延享元年六月御目付ヨリ任セラレ寶曆三年三月四日御鎗奉行へ轉ス

依田和泉守政次

寶曆三年四月御作事奉行ヨリ任セラレ明和六年八月大目付へ轉ス

曲淵甲斐守景漸

明和六年八月大坂町奉行ヨリ任セラレ天明七年六月西丸御留守居へ轉ス

石河土佐守政朝

天明七年六月寄合ヨリ任セラレ再勤ニ付上席同年九月病死ス

柳生主膳正久通

天明七年九月御普請奉行ヨリ任セラレ同八年御勘定奉行へ轉ス

初鹿野傳左衛門依與 後河内守

天明八年九月浦賀奉行ヨリ任セラレ寛政三年十二月病死ス

小田切土佐守直年

寛政四年正月大坂町奉行ヨリ任セラレ文化三年役所ヲ吳服橋内ニ移サレ同八年四月病死ス

永田備後守正道

文化八年四月御勘定奉行ヨリ任セラレ文政二年四月病死ス

柳原主計頭忠之

文化二年閏四月御勘定奉行ヨリ任セラレ天保七年九月大目付ニ轉ス

大草能登守高好 後安房守

天保七年九月御勘定奉行ヨリ任セラレ同十年正月病死ス

田代甲斐守景光

遠山左衛門尉景光

天保十一年三月御勘定奉行ヨリ任セラレ同十四年二月大目付ニ轉ス

阿部遠江守正藏

天保十四年二月大坂町奉行ヨリ任セラレ同年十一月西丸御小姓組番頭ニ轉ス

鍋島内匠直存 後内匠頭

天保十四年十月小普請支配ヨリ任セラレ嘉永元年十一月大番頭ニ轉ス

牧野駿河守成綱

嘉永元年十一月御勘定奉行ヨリ任セラレ同二年七月辞職ス

井戸對馬守覺弘

嘉永二年八月長崎奉行ヨリ任セラシ安政三年十一月大目付一轉ス

跡部甲斐守良弼

安政三年十一月大目付ヨリ任セラシ再勤ニ付上席同五年清水附支配一轉ス

石谷因幡守穆清

安政五年五月御勘定奉行ヨリ任セラシ文久二年六月一橋殿家老一轉ス

小笠原長門守長常

文久二年六月御勘定奉行ヨリ任セラシ同年十月御書院番頭一轉ス

淺野備前守長祚

文久二年十月寄合ヨリ任セラシ同三年四月御作事奉行一轉ス

佐々木信濃守清道

文久三年四月御勘定奉行ヨリ任セラシ同月西丸御留守居一轉ス

阿部越前守正外

文久三年四月外國奉行ヨリ任セラシ元治元年三月本家白河城主阿部豊後守跡目相續ヲ命セラシ免職

都筑駿河守峯暉

元治元年三月御勘定奉行ヨリ任セラシ同年七月

月免職セラル

池田播磨守頼方

元治元年七月御小姓組者頭ヨリ任セラレ再勤

付上席慶應二年七月勤仕並寄合へ轉ス

井上信濃守清直

慶應二年七月御勘定奉行ヨリ任セラレ同三年十

二月病死ス

小出大和守実

慶應三年十二月

ヨリ任セラレ同四年二月

免職

石川河内守利政

慶應四年二月

ヨリ任セラレ同年五月退任

○中野奉行所系

始々吳服橋内ニ在リ南、称アリ後鍛冶

橋内ニ移テ八重洲河岸ニ設ケラレ南、

称アリ明暦三年之ヲ廢シ寛文元年更

ニ鍛冶橋内ニ設ケ享保四年所奉行一人

ヲ減セラレ之ヲ廢ス

加々爪民部少輔忠澄

寛永八年九月所奉行ニ任セラレ同十五年四月六日

付一轉ス

神尾内記元勝 後備前守

寛永十五年五月御作事奉行ヨリ任セラレ寛文

元年三月辞職ス

渡辺半右衛門綱定 後大隅守

寛文元年四月新番頭ヨリ任セラシ延寶元年正月
大目付へ轉ス

宮崎若狹守重成

延寶元年正月京都所奉行ヨリ任セラシ同八年二月
辭職ス

松平與右衛門忠冬 後隼人正康記

延寶八年二月新番頭ヨリ任セラシ同年八月徳松
殿附人ニ轉ス

甲斐莊喜右衛門正親 後飛彈守

延寶八年八月御勘定奉行ヨリ任セラシ元禄三年
十二月病死ス

○中世奉

能勢出雲守頼相 後頼寛

元禄三年十二月火坂所奉行ヨリ任セラシ同十年四月
辭職ス

松前伊豆守嘉廣

元禄十年四月京都所奉行ヨリ任セラシ同十六年十
月大目付へ轉ス

林 土佐守忠和

元禄十六年十一月長崎奉行ヨリ任セラシ寶永二
年正月辭職ス

坪内源五郎定鑑 後能登守

寶永二年正月御先手頭ヨリ任セラシ享保四年正
月辭職ス後任ヲ置カレズ此所奉行所廢サル

朝比奈甲斐守昌廣

慶應三年八月外國奉行ヨリ所奉行ニ兼任セシ
蓋ニ築地外國人居留地事務、為メ所奉行一人
ヲ増シ其役所ヲ新設セテスル計画ナリシモ事成ル
ニ及ハスレテ幕府廢テシタリ

(二) 所奉行所位置、沿革

慶長五年極倉四郎左衛門勝重加藤嘉左衛
門正次江戸所奉行トシテ關東ノ民政ヲ司リシ時
ハ奉行所ハ吳服橋御門内ニ在リシモ、如ク寛
永八年所奉行二人ヲ置カシ更ニ八重洲河岸ニ役

所ヲ設ケラレ後々常盤橋内ニ移サル明曆三年石
谷右近將監貞清常盤橋内(現今大午町一丁目銭
瓶橋北詰)神尾備前守元勝吳服橋内(現今永
樂町二丁目銭瓶橋南詰)、兩役所焼失シ元禄
十一年保田越前守宗郷松前伊豆守嘉廣勤
役中再ニ焼失シタル際伊豆守吳服橋内、役所ヲ
鍛冶橋内(現今永樂町一丁目南角)ニ移轉ス元
録十五年丹羽忠近江守新ニ所奉行ニ任セラレ所奉
行三人トナリ別ニ鍛冶橋内(現今八重洲町二丁目)ニ
役所ヲ設ケ寶永四年松野忠岐守助義勤役
中常盤橋内役所ヲ數寄屋橋内(現今有樂町
二丁目)ニ移サル享保四年中山出雲守時春勤役

中鍛治橋内役所焼失ニテ常盤橋内ニ移設セラレ
他、役所ハ享保四年坪内能登守定鑑病氣退
職以後々任ニ置カレテ所奉行ニ人ノ旧制ニ復セラレ
此由テ廢サレ文化三年小田切土佐守直年勤役
中焼失ニ依リ常盤橋内役所ヲ吳服橋内(現今
永樂町)ニ下目南角ニ移轉シ維新當時ニ於ル所
奉行所ハ数寄屋橋内ト吳服橋内ト兩所ナリシ而シ
テ奉行所ハ稱呼ニ至リテハ素ト其位置ニ依リタルモノナ
ク之ヲ奉行任命ノ系統ヨリ謂ハ近時ノ南奉行所
ハ旧北北ハ旧ト中ニシテ旧ト南ハ廢サレタルモノナ
ク谷本止保並ニ貞武等並ニ廢ル(現今大平町)ト目録
所奉行所年中行事ニ於テ此ノ服番ニ平云

正月九日

曉七ツ時揃ニテ奉行ハ組與力同心、年賀ヲ受テ
其式與力一同鬘斗目麻上下ニテ廣座敷ノ兩側ニ相
對ニテ着坐ス奉行亦タ鬘斗目麻上下ニテ二面ニ臨
ム與力筆頭ノ者總代トシテ加賀詞ヲ述ハ奉行ニ受
ル公用人ハ同ノ鬘斗目麻上下ニテ切鬘斗ヲ載セタル三
方ヲ持出シ奉行ノ前ニ置ク奉行ニ受テハ用人ハ
其三方ヲ左右上席ノ與力ノ前ニ置ク與力ハ順次ニ礼
シテ其鬘斗ヲ受テ終尾ニ至リテ三方ヲ前ニ出セハ公用人
來リテ之ヲ取り去ル與力ノ總礼ヲナシ奉行ニ受テ
退座ス
同心支配役與力五人ハ同心一統ヲ引率シテ席ニ

入り與力ハ奉行席人左右侍座不奉行臨席不ハ與力ハ筆頭賀詞ヲ述一奉行之ヲ受ケ候斗ハ三方ヲ出ス早割ハ與力ハ前ニ置又同心儀禮ハ奉行退座次ハ與力ハ退堅ハ候斗ハ隨意分配ハ式主儀ハ與力ハ前ニ置又同心儀ハ所奉行ハ明六ハ時裝束ヲ登城スハ受ケ候斗ハ此日同リ五日マテ與力同心壹番組ヨリ五番組マテ順次総員ニテ勤務ス内與力二人同心二十五人宿直夫身奉行支配因獄石出帶刀所年寄館市在衛門樽藤左衛門喜多村彦右衛門地割役樽屋三右衛門浪人様御用山田淺右衛門年賀トシテ出頭ス

二日

所々地主總代名主役年賀トシテ出頭ス所年寄侍坐ニ奉行之ヲ受ケ候斗例ノ如シ

五日

新年祝賀トシテ奉行ヨリ與力一同ヲ奉行所ニ招待シテ郷食應ス出席者ハ候斗目麻上下奉行出席挨拶アリ筆頭與力謝辭ヲ述フ公用人三組盃ノ三方ヲ持出ス奉行一献ヲ飲ミテ筆頭與力授ク夫ヨリ止不

六日

此日ヨリ五日間同心ヲ郷食應サレ同心支配役與力侍

坐ス

十日

此日ヨリ十日間同心ヲ郷食應サレ同心支配役與力侍坐ス

十七日

御用始本日ヨリ諸般、事務ヲ執ル出勤、與力裏付
並下(裏附上下ハ麻上下ニ裏ヲ附ケタルモノニテ現代
亦禮服ナリ)

十八日

始テ内寄答内寄會々ハ月番、奉行所ハ非番
奉行來會ニ事務ヲ協議スルモノニテ毎月六日十八日
廿七日ハ例數ナシ且日ナ

廿月

初午、日奉行所搦内奉祀、稻荷社、祭祀、行
テ奉行所、當日出勤、若(赤飯ヲ出シ奉行拝礼)

廿月三日

二日

上巳、節句、當番與力、礼服諸掛役ハ事務休止

五月五日

端午、節句、當番與力、礼服諸掛役ハ事務休止

六月七日

南傳馬所、牛頭天王祭礼、神樂、西奉行所ニ來ル

玄關前ニ酒饌ヲ供シ奉行拝礼ス、獅子頭ハ玄

關ニ上ル此日象人ハ玄關前ニ入ルコトヲ許シ道明寺

水ヲ出シ群集ニ縱飲セシム

十五日

隔年山王祭礼、際諸掛役ハ事務休止

七月七日

七夕、節句、當番與力、礼服諸掛役ハ事務休止

十三日ヨリ十五日マテ 孟蘭盆會 諸掛役ハ事務休止

八月朔日

八朔、祝日者 與力 礼服白帷子 諸掛役ハ事務
休止

九月九日

重陽ノ節 向者 與力 礼服 諸掛役ハ事務休止

十五日

隔年神田明神祭礼 諸掛役ハ事務休止

十二月二十五日

御用細々此日 與力同心ノ 點降及賣與アリ 與力ハ
奉行也ヲ行ヒ同心ハ 其命ニ依リ年者 與力之ヲ
行フ

此日ヨリ事務休止

先帝ノ御忌日代々 將軍家ノ忌日 其他諸般ノ
祝日等皆事務ヲ休止ス 休日ト雖モ 通常ノ許
及届等ハ之ヲ受理シ 緊急ノ事項ニ就テハ 其処分
ヲ為ス

(四) 與力同心人員ノ沿革

慶長五年十月 板倉四郎左衛門勝重 江戸所
奉行タリシ時 與力十騎 同心五十人ヲ 附屬セシメ
テ 寛永八年九月 所奉行二人 制ヲ定メラレシ時
與力十騎 同心五十人ヲ 増シ之ヲニ夕組トシテ 二人
ノ奉行ニ從屬セシメ 後 與力ヲ雙方五十騎ニ 増ス

寛文二年七月同心五十人宛ヲ増シ一ト組百人宛ト
及天和二年同月同心八十人ヲ減シ一ト組六十人
宛トナル
元禄九年 同月同心五十人ヲ増シ一ト組八十五人宛
トナル

元禄十五年閏八月所奉行一人増員、際在來一ト組
ヨリ與力三人同心十人宛新所奉行ニ移属セシメラ
レ尚増員シテ一ト組與力二十二騎同心七十五人宛
トナル
享保四年正月所奉行一人ヲ減セラレタル際其組ヨ
リ他トニ組へ與力二騎或ハ三騎缺員アリニ由ル同心二十人
ヲ増シ與力二十三騎同心八十人宛トナル

宛ヲ組入レ餘ハ他ニ轉シ一ト組與力二十五騎同心百人
宛トナル
其後與力缺員、補充ヲナサス同心ニ増員アリテ、
維新當時ニ於ケル與力ハ四十六騎同心ハ二百八十人ナリ

(五) 與力同心、受給及收入

與力ハ始メ上總下總及武蔵金杉村内ニテ壹万石
ノ地ヲ給セラレ後々金杉村ハ上野領トナリ厩地ヲ
下總ニテ給セラル與力ハ一人貳百石ヲ以テ定額トス
然レモ新ニ召出サレ又ハ命セラレタル者ハ百六十石トシ
勤功ニ依リ増額セラレ二百石ヲ極度トシ多年ノ勤
勞ニ依リ五人扶持ヲ特ニ給セラルハコトアリ同心支配

役ニハ三十石宛増給セラル而シテ與カハ雙方四十六人
ナレハ四人分ノ剩餘額ハ内與カト称スル奉行家
系ニシテ公用ヲ擔任スル雙方公用人六人目安方四
人ニ分給ス而シテ與カノ收入ハ檢見取ヲ以テスル故
ニ歲ノ豊凶ニ由リテ増減アリ又小物成即ケ雜稅トシ
テ收入スルモノハ大豆小豆塩田作等アリ米ハ五斗俵ヲ
以テ二百俵乃至二百七八十俵ナリトス其他夫人ト称シ
壯丁ヲ徴シテ使役ス羅災ノ事トア六用金ヲ徴ス百
石ニ付金拾兩ノ定メナリ是等ノ收入度務ヲ取扱フ為
メ村方名主中ニ給知役ヲ命ジ内一人ヲ江戸ニ在
住セシメ古冬ノ與カ一ト組ニ二人宛給知世話番ト称
シ之ヲ監督シ且領主トシテノ事務ヲ施行ス

與カノ子弟ニシテ本勤並トシテ勤務スル者ニハ年額
金貳拾兩ヲ給セラル又特ニ三拾兩或ハ十人扶持ヲ
給セラレタルモノアリ

同心ハ三十俵二人扶持ヲ以テ定額トレ子弟ニシテ仮
抱入トナル者ハ二十俵二人扶持ナリ尚年寄同心ハ五
俵物書同心ハ三俵ヲ増給セラル又捕物其他勤功
三由ノ與カニ拔擢セラレ若クハ十俵以上百俵マテ増給セラ
レタルモノアリ是ハ何レモ庶米ヲ以テ給セラル

受領地與カハ一人三百坪同心ハ百坪ニシテ同心分
ハ町屋敷ナレハ市人ニ貸與スルコトヲ得ルモノナリ
分課事務ニ就キ特ニ扶持ヲ給セラルモノアリ又年末慰
勞ヲ給與アリ其他臨時重要ノ事務ニ就キ賞與アリ

リ特殊ノ事件ニ就テハ特ニ老中ノ命^依給セラレコトアリ
而シテ其額通例與カハ白銀十枚同心ハ金五両ヲ
以テ限度トス
與カ同心ニシテ重要ナル事務例ハ年番吟味方廻り役等
ニ在ル者ハ各諸侯ヨリ御用頼ニト称シ常ニ米八十丈扶
持銀八十枚辦金ハ千匹迄其他隨時國產ノ物品等ヲ
贈ラレ而シテ事故アル場合ニハ又相應ノ贈リ物アリ是
等ハ皆公然ノ事トシテ認メラレ其額決シテ少小ニテサレ
ナリ

(六) 與カ同心住地ノ沿革
慶長年間與カハ金杉村ニテ住地ヲ給セラレ同心ハ役

所、構内ニ住シタリト云フ寛永ニ至リ八丁堀法泉寺願成
寺長應寺ノ地ヲ召上ケラレ大繩地トシテ受領シ之ニ移シ
寛文二年同心五十人宛百人増員ノ節本所ニ橋南方
ニテ住地ヲ給セラレ與カ四人取締ノ為メ支配役トシテ
之ニ移シ天和二年同心八十人減少ノ時此地ハ御用
地トナリ八町堀ニ移ル元禄九年五十人増員ノ時本所
法恩寺前ニ於テ住地ヲ給セラレ而シテ遠隔ニシテ勤務ニ
不便ナルヲ以テ請フテ元大坂所續青山播磨守邸地
ヲ給セラレ寶永七年二月請フテ同心受領地ハ所屋
敷タル所ヲ先許セラレ正徳三年三月元大坂所ノ住地
召上ケラレ換地ヲ八町堀ニ給セラレ皆之ニ移ル此跡
地ハ今ノ松島町ナリ

此等令... 諸役ハ固有一職務ニシテ故多ノ順序

(七) 與力同心勤務ノ概略
與力同心ヲ五組ニ分ケ其筆頭ナル者同心支配役ニ
任セラシ其名ノ如ク同心ノ身分ニ關スルコトヲ監督ス又
同心中ニ年寄物書添物書等ノ役ヲ分ケ各其任
務ニ就ク以上ノ諸役ハ固有一職務ニシテ故多ノ順序
ニ由リ任命セラルモナリ而シテ其五組ニ分ケタル人々
順次役所ニ勤務シテ庶務ヲ執行スルハ旧制ナリ
モ年ヲ経テ事ヲ務多ノ端トナリタルカ為メ分課專任ヲ
設ルニ至リ之シカ擔任ナキ者當番方ト稱シ庶務受附
ト任ニ當リ宿直ヲナス其人員ハ與力二人年寄同心
物書同心各三人平同心ハ各組ニ拘ハラズ分擔事務

ナキ者ヲ三分シテ交番宿直センヤ而シテ當番與力ノ掌
ル所ノ事務ノ梗概ハ
市中ヨリノ諸般ノ訴及諸向キノ届(例ハ盜難拾物拾
得品取落等)ヲ受ケ成規ニ從ヒ処分ヲナシ物書ヲシテ
式ニ從ヒ書記センメテ言上帳ナル者ヲ製シテ之ヲ奉行ニ
差出ス

市中ニ於テ乱妨狼藉ヲナシ又ハ閉籠ル者アリ之カ捕
縛ヲ願出ル者アルトキハ之ヲ奉行ニ申達シ其指揮ヲ
受ケ當番與力一人檢使トシテ平同心三人(捕へ者
ノ數ニ依テ差アリ)ヲ引率シ出張ス

附記 捕へ者ノ出役ハ訴ニ由ルモノト限テス彼
丸橋忠弥ヲ捕へタル時、如キ奉行ノ命ニ依

此當番方ヨリ出張シテ此時ニ於ケル
行装ハ與カハ着流シテ鎗ヲ小者携フニ
同心モ同ク着流シテ鎖帷子ヲ著シテ裾
受トト着流シテ小者腰當鎖入り同鉢巻ヲナシ齒引
鞆カヲ帶シテ持ッテ此捕ヘ者ニ就テ
記録ハ今猶ホ帝國圖書館ニ現存セリ
駈込許ナルモアリ是ハ多ク急迫ナル事情ノ為相當順
序ヲ待ツ能ハス直ニ奉行所ニ來リテ救解ヲ求ム
ル者ニシテ間々精神病者ノ看護ヲ脱シテ來ル者アリ
是等ハ一應其願意ヲ聽キ相當ノ順序ニ從テ可
キヲ説諭シ服セサル者ハ町役人ヲ呼出シ之ヲ引渡シ
民事訴訟ヲ提出スル者アレハ順序ニ從ヒ目錄ヲ

造リ又對審日ニ當ル者モ同ク帳簿ヲ製シ奉行公廷
ニ差出ス手續ヲナス個ハ物書同心ニ於テ專ラ擔任ス
廻リ方同心ニテ召捕タル者ヲ送付シ來リタル時ハ之ヲ受
取り奉行公廷ニ出ス取扱ヲナシ休日ノ時ハ入室ヲ取
扱ヲナス
喧嘩口論其他ノ事故ニ依リ変死負傷等ノ訴アルト
キ八年寄同心ヲシテ出張檢案セシメ其歸報ヲ待テ
之ヲ奉行公廷ニ出ス准テ備ヲナス
定例又ハ臨時出役事項アルトキハ之ヲ豫メ定メタル順
序ニ從ヒ觸當ヲナス
奉行公廷ヲ開クトキハ侍座ニテ臨時事項ヲ取扱
ヲナス

手錠ノ申渡ヲ受ケタル者アルトキハ当番所ニ於テ年寄
同心ヲシテ之ヲ嵌メ封印ヲナサシム又其情状ニ從ヒ
毎日或ハ隔日ニ出頭セシメ之カ検査ヲ為ス
当番同心ノ任務ハ年寄同心ハ諸般ノ檢使見分出
張ノ物書同心ハ一切ノ書記ニ任シ平同心ハ奉行登
城及出火ノ際ノ出馬ニ陪從シ公庭ノ取締諸達公文
召喚状等ノ送達ヲ掌ル

分課專任ノ名称及其司掌左ノ如シ
年番方 與力三人 同心六人 同書物方三人
旧時ハ同心支配役中ヨリ毎年交代ニテ勤務シタ
リ因テ年番ノ稱アリ近時ハ拔擢ニ依リ任命セ

ラレ繼續シテ勤務ス而シテ其職トスル所ハ役所全般
ノ取締金錢ノ保管出納及組中ノ監督同心分
課ノ任免等ニ在リ亦臨時重要ナル事項ヲ処理ス

本所方 與力一人 同心二人
本所深川ニ関スル諸般ノ事務ヲ取扱フ者ニテ橋
梁道路ノ普請建物ノ調査及名主ノ進退等ヲ
掌リ本所道役ト稱スル属吏アリ又船小稱スル
快船ニ隻ヲ管シ洪水ノ際橋梁ノ保護及人命救
助ノ事ニ從フ

養生所見廻 與力一人 同心二人
小石川白山ニ設置シタル貧民施療所ノ事務ヲ管
理ス

穿屋見廻 與カ一人 同心二人

小傳馬上野、囚獄ニ於ケル諸般、事務ヲ監督

吟味方 與カ十人 同心二十人

内本役四人 見習二人

民事、審理、勸解、刑事、審判及終結執行關

スル事務ヲ掌ル

赦帳、拱要方人別調掛 與カ四人 同心八人

既決囚人ノ罪質ニ依リ調査ニ置キ赦令アル

キ之カ名簿ヲ製シ其取扱ヲナシ及ニ拱要類集、

編纂ヲ掌リ又人別帳ノ事ヲ管ス

高積見廻 與カ一人 同心二人

体裁ノ維持危險ノ豫防ノ為所々河岸地等

商品ヲ積重スルニ制限アリテ之カ違犯者ナキ

カラ巡廻ニテ取締ルコトヲ掌ル

所火消人足改 與カ二人 同心四人

十一月ヨリ三月マテ與カ一人

同心二人ヲ増ス

出火ノ際所火消ノ防火進退ノ指揮ヲ為ス

風烈巡晝夜廻 與カ二人 同心四人

常ニ市中ヲ巡回ニテ非常警言戒ヲナスヲ掌ル

例線方 與カ二人 同心四人

罪囚ノ犯罪ノ情状斷罪ノ擬案ヲ蒐集記録

他日ノ參考ノ資ニ供シ又事ニ臨ニテ檢討索例

ノ事ヲ掌ル

罪野會所掛 與力二人 同心四人

町會所ニ於ケル積金貸金窮民救助團

ニ關スル事務等ヲ監督ス

定稿掛 與力一人 同心二人

官費經營ニ係ル槁梁ニ關スルコトヲ掌ル

古銅吹所見廻 與力一人 同心二人

本所横川ナル松田甚兵衛ノ經營スル古銅吹

替ノ業務ヲ監督ス

市中取締諸色調掛 與力一人 同心一人

(時ニ依リ異同アリ定員ナシ)

市中取締ニ關スル諸般事務ヲ掌ル

猿屋町會所見廻 與力一人 同心二人

浅草御藏札差ノ業務ノ執行ヲ監査ス

御肴青物御鷹鉾鳥掛

名称ノ事務ヲ掌ルモノニテ南奉行所ノ年番

方兼掌ス

諸問屋組合再興掛 與力八人 同心若干

諸問屋組合再興ニ關スル事務ヲ掌ル

非常取締掛 與力八人 同心十六人

非常事件ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

外國掛 與力一人 同心一人

外國及外國人ニ關スル事務ヲ掌ル

開港掛

横浜及江戸開港開市ニ関スル事務ヲ掌ル

御國益御任法掛

名称ノ事務ヲ掌ル

非諸色潤澤掛

名称ノ事務ヲ掌ル

諸式値下掛

同

箱館産物會所見廻 與力一人 同心二人

箱館奉行管轄地ノ物産賣捌ノ事務ヲ監督ス

外國人居留地掛 與力一人 同心二人

築地外國人居留地設定ニ関スル事務ヲ掌ル

町兵掛

江戸市民ノ壯丁ヲ募リ訓練シテ自衛ノ事ニ任

スル事務ヲ掌ル

人足寄場定掛 與力一人 同心二人

石川島ニ設置シタル無宿罪人ノ懲治場事

務ヲ監査シ且横須賀埋立ニ使役スル寄場人

足ヲ監督ス

硝石會所見廻 與力一人 同心二人

硝石採集彈藥製造ニ関スル事務ヲ監査ス

用部屋手附 同心十人

奉行用人ニ属シ刑事断案ノ調査起稿ヲ掌

奉 隱密廻 同心二人

奉行ニ直屬シテ秘密探偵ノ事ヲ掌ル

定所廻 同心六人

法令ノ施行ヲ視察シ非違ヲ勘査シ犯罪

ノ搜查逮捕ノ事ヲ掌ル

臨時廻 同心六人

職掌定所ニ由ク 興立一人 同心二人

下馬廻 同心六人

諸侯登城ノ目大手門外其他ニ於テ儀録

取締ヲナス

門前廻 同心七人

月番老中若年寄ノ葺容日ニ其門前ノ取

締ヲナス

御出座御帳掛 同心二人

評定所ノ老中出座ノ日ニ於ケル事件名簿

調製ヲ掌ル

定觸役 同心三人

臨時出役事件アル時同心當任者ノ觸當ヲ

ナスコトヲ掌ル

引纏役 同心二人

出火ニテ奉行出馬ノ際隨行諸般ノ用務ニ

服ス

定中役 同心十人

臨時觸當ニ依リテ諸般ノ出役ニ從事ス

西御組姓名掛 同心一人

兩組與方同心姓名帳編纂及加除記入、

出役ノ名称及其司掌左、如シ

評定所式日出役

式日トハ毎月二日十二日廿二日寺社奉行母奉行甚
定奉行大小目付會合老中出席之民事訴訟
ノ審理判決ヲナス日ヲ謂フ出役ハ月番ノ方ヨリ同
心支配役外一人ノ與方物書同心一人平同心四人
非番ノ方ヨリ與方一人平同心四人出役之當日案
件ニ関スル帳簿ヲ製シ出廷者、進退及取締等ヲ
掌ルモノナリ

評定所立合出役

立合トハ毎月四日十三日廿五日ニ於テ老中出席ナキ外前
記ト同ク月番ノ方ヨリ與方二人物書同心一人平同心
四人非番ノ方ヨリ與方一人平同心四人出役ス

評定所御詮議出役

評定所ニ於テ刑事、審理判決アル時當事者、進
退監視及被罰者、取扱等ヲ掌ルモノニテ其出役
ノ人員ハ時ニ隨ヒ奉行、命令ニ依ル

上野増上寺へ御成、節御道見分出役

與方雙方二人同心月番ノ方二人非番ノ方一人道
筋母ヲ巡回シ名主月行事ヲ呼出シ掃除其
他例ニ照シテ注意ヲ申達ス

御成當日御道筋見廻リ並ニ人拂出役

御成御道竹助ヲ見廻リ名主月行事ニ葺シ火ノ元、
事等相違還御以後、雜踏ヲ取締ル與力雙
方四人同心八人

御法事、節御赦出役

與力雙方四人同心被赦囚人、數ニ依ル被赦囚人
、進退等ヲ監視ス

御施行場地渡并矢來出來見分出役

與力雙方二人年寄同心同二人施行場ノ地ヲ御
代官一引渡及矢來出來、節其見分ヲナス

御施行米被下置候節出役

與力雙方四人年寄同心同二人平同心同六人
施行米渡、監視ヲナス

御鷹野御成、前日御道見分船片付船拂
並高積修復船改出役但当日高積修復船

御徒一引渡出役

與力雙方二人同心月番、方ヨリ二人非番、方ヨリ一
人表目、事ヲ行フ

御成、節新規御道竹助見分出役

與力雙方二人同心同二人表目、事ヲ行フ

山王祭礼警固出役

與力一組五人(後世三人トナル)同心十五人宛組別

ニ祭礼行列、前後ニ立テ警衛ス與力ハ礼服騎

馬同心ハ支給ニ係ル一様、小紋羽織ニ袴ナリ此出

役ハ特別、モ、ニシテ他、出役ト異ニシ尤モ光榮足

手ト出仕、順序ニ依リ必ク勤シ可キモノトナリ

永川祭礼、警固出役
與力雙方四人同心四人神楽警固、事ニ任入

神田明神祭礼、節社内繰出田安御門繰入出役
與力雙方二人同心四人宛社内田安御門トニ出役ト

繰出繰入、事ヲ司ル
御前公事、節出役
將軍家訟獄、審理判決、親閱ヲ行ハルトキ特

送、同心支配役與力雙方六人與力同心四人年
寄同心同十人平同心同二十六人物書同心同

二人囚人者事者、進退及警言戒、事ヲ司ル

町人御能拜見出役

火手、方與力雙方十人同心同四十人櫻田、方與
力同心雙方同數町人城内へ繰入及退出、際、

監視ヲナス
同上御下附錢請取出役
與力雙方二人同心同四人御錢藏、錢受取奉

行所へ送付、事ヲ司ル
地渡地請取出役
與力雙方二人年寄同心同二人官地、貸與下付

若クハ之力返付、際ニ於ル授受、事ヲ司ル
捕者檢使出役
與力雙方二人捕方同心ヲ引率、其働キ方、檢

4

使ヲナシ之ヲ奉行ニ上申スルコトヲ司ル

所奉行所ヨリ武家方へ預ケ、者病死節檢使出

役

與カ雙方二人年寄同心同人物書同心同二人
病死体、檢査關係者、口供見分書等、作成ヲ
為ス

火事場出役

月番、節與カ二人出火不此時出張ニテ奉行、命
ニ依リ雜人、退去ヲ人命ニ其他取締、事ヲナス

芝居見分出役

與カ雙方大人同心同十二人三曰ニ分レ三芝居ニ出
張ニ衣装類ニ制禁ヲ犯サルヤ否ヲ監視ス

死罪並ニ斬罪檢使出役

評定所ニ於テ斬罪ニ処セラレタル者、行刑及死罪
者、行刑、檢視ヲナス 與カ一人掛リ、方ヨリ出ル
但死罪ニ付テハ奉行ヨリ其申渡書ヲ渡サレ、
屋舖ニ於テ檢使之ヲ讀渡ス、首討役同心二人掛リ
、方ヨリ出ツ

於屋敷切腹人有之節出役

與カ一人掛リ、方ヨリ出ツ行刑ニ立會テ介錯添介
錯トシテ同ク同心二人出役ス

敲檢使出役

掛リ、方與カ一人刑場ニ於テ檢使ヲナス
引廻シ檢使出役

下口ニ付與力雙方二人騎馬同心囚人一人ニ付同
四人行刑ノ檢使ヲナス又申渡ヲナスコト死罪ニ同
遠島者御船手へ引渡出役

與力雙方二人同心遠島者ノ人員ニ應ニ不定遠島
ニ知セラレ者ヲ牢屋敷ニテ受取御船手役所
引渡スナリ
六所屋敷境目爭論見分出役

與力雙方二人同心同二人実地ニ就テ見分止見分書
及繪圖ヲ作成ス

正月大罪並ニ博罪食料出役
與力家庭ノ年中行事
正月大罪並ニ博罪食料出役

新年、設備 門前ニ本柱二本ヲ立テ松及竹ヲ飾
リ根ニ松薪ヲ周ラシ木材又ハ竹ヲ兩柱ニ架シ門
形ヲナシ之ニ注連ヲ掛ク注連ニ幣、函乃木、楪、海老、
昆布、神馬藻、ト、榎、栗、野老、類ヲ奉書紙ニ
包ミ紅白、水引ニテ結ヒタル福包ト称スルモノトヲ結ヒ
付ク門内者関前ニ杭ヲ立テ稍小ナル松ヲ立テ玄關
敷台、鴨居ニ亦注連ヲ掛ク其他家内間毎ニ輪飾ヲ
掛ク
座鋪、床ニハ喰積台ヲ置ク大ナル三方ニ奉書紙ヲ
敷キ函乃木ヲ載セ白米ヲ盛り根アル小松ヲ立テ楪、
海老、榎、勝栗、神馬藻、野老、麩、汁、等ヲ添エ金
銀、水引ヲ以テ裝飾ス又白木ノ台ニ大ナル鏡餅ヲ飾

リ或ハ輪取リト称スル圆形ニシテ厚キ餅ニ菱形ノモノヲ
重ホ飾ルアリ何レモ迷采、蝶、昆布、海老、福包等ヲ載ス
之、関、天井ヨリ棚ヲ吊リ下ケ当年ノ惠方ニ向日歲德
神ヲ祭リ注連ヲ張リ神酒、餅ヲ供エ之ヲ歲神棚
ト称ス以上ノ設備ニ就テハ家々ニ依リ其法ヲ異ニシテ
必ラスレモ一様ナラス

元旦
主人ハ年賀ノ礼トシテ曉セツ時前、熨斗目麻上下ニ
テ奉行所ニ出頭ス若、堂、鍮持、巾履取、扱箱持
等ヲ從ヘ箱挑灯ヲ携フ家族ハ礼装シテ其帰宅ヲ
待リ即ケ妻ハ襦、褌、男子五歲以上ハ麻上下ヲ着ス主人
帰宅スレハ家族一同、年礼ヲ受ケ祝膳ニ就キ雜煮ヲ

食ニ屠蘇、杯ヲ擧グ

雜煮ハ味噌汁ニシテ餅、焼豆腐、芋、大根、菜ヲ入
ル鱈ハ田作及刺ニ大根トス平ハ焼豆腐、午、莖、胡

蘿、薺、芋、田作取者數ノ子焼者鮭等ナリ

終テ親族同僚ニ年始、廻礼ヲナス

三日迄ハ大畧同一ナリ其後ハ妻女ハ裾、摸、縁、付、装
ヲナシ子女亦之ニ準ス

年始客、來ルアレハ屠蘇、祝杯ヲ備ヒ取物ニ鱈、昆布
又白魚、菜等、清汁ヲ出シ重詰ナル數ノ子、莖、豆、午
莖、昆布、卷、鮎等、取者ヲ郷食ス

親族、婦人、年礼ニハ年玉トシテ其家、僕、婢ニ相
當、物品ヲ與フルヲ例トス而シテ婦人、年礼ハ必ラスニ

七年首ニ限ラスニ三月ニ於テスルモアリ
六日

門飾リ及外部ノ注連ヲ撤去ス

此夜七種ヲ囃ス姐上ニ薺及菜ト杓子、榴木、菜箸、

薪、庖丁、火箸、銅壺、蓋トヲ載セ唱歌ヲ唱ヘワ、搦

木ヲ以テ姐ヲ叩ク宵ト夜中ト曉ト、三回之ヲ行フ

七日

七種粥ヲ祝フ

十一日

具足開キト称シ備餅及飾餅ヲ崩シ神前ニ供シ

汁粉ヲ製シテ之ヲ食ス

十四日

一般ノ注連ヲ撤シ削リ掛ケト称スル柙ノ枝ヲ削リ掛

ケタルモノヲ掛ク

十五日

小豆粥ヲ祝フ此粥ヲ煮ル竈ニテ注連ノ類ヲ燃燒ス

十七日

本日ヨリ主人奉行所ニ出勤事務ニ従フ

正月上旬古來ヨリ契約ニ依リ定マリタル日三河萬歳

來ル太夫ハ素袍折烏帽子帯刀才藏ハ侍烏帽子

ヲ著ス酒ヲ郷食シ鼓ヲ打ケ舞ヒ謡フ滑稽言談諺ヲ極

ム近隣ノ子女ヲ請ヒテ之ヲ觀セシム鏡餅若クハ白米及

目錄ヲ贈ル

太神樂ト称シ種々ノ曲技ヲナス者亦夕例ニ照シテ來リ

演ス近隣ノ子女ヲ招クコト前ノ如ク
福引キ歌留多遊等ヲ催フニ子女ヲ慰ム

二月

午、自邸内勸請、箱荷、祭事ヲ修ス附近ノ神宮
ヲ請ニ又太鼓ノ類ヲ備ヘ近傍ノ子女ヲシテ自由
ニ遊戯セシム

八日

御事納ト称ニ目籠ヲ等頭ニ貫キ高ク之ヲ掲文
御事汁ト称ニ蘿蔔、胡蘿蔔、芋、蒟蒻、焼豆腐
小豆、味噌汁ヲ食ス

三月

三日上巳、節句雛祭執行親戚、女兒ヲ集メ饗食ス

女兒ノ生後始テ此辰ニ逢フ者アルトキハ親族知人ヨリ
祝、贈物等アルハ其人々ヲ請ヒテ宴ヲ張リ又菱
餅ヲ贈ル

四月

八日茅場町薬師堂ニ於テ佛生會執行サル相率
ヒテ参詣ス

五月

五日

端午、節句懺葛蒲刀武者人形等ヲ飾リ祝ス
男児、始テ此辰ニ逢フ者アルトキハ親族知人ヲ會ヒテ
宴ヲ張ル此日葛蒲ヲ門及軒ニ挿ニ葛蒲酒ヲ祝フ
又柏餅ヲ製成シテ贈物トス

六月

十五日

産土神山王権現祭日赤飯ヲ焚キ之ヲ祝ス隔年神
輿茅場町御旅所ニ渡御ノ節ハ家族等相率ヒテ
其行列ヲ觀且ツ參拜ヲナス

十六日

嘉祥祝ト称シ家族等各錢十六文ニ値ル菓子又
ハ鮓類ヲ購ヒ食ス但之ヲ食ヒ終ルマテ笑フコトヲ禁
シ之ヲ犯セハ不吉トスサレハ他ヲシテ笑ハシメントシテ却テ自
ラ笑フニ至ル等頗ル滑稽ヲ極ムルコトアリ

六月土用中暑中見舞ト称シ同僚親族相互ニ贈
答ヲナス

七月

七月

七夕ノ節旬五色ノ紙ヲ色紙短冊ノ形ニ截
リ家族一同筆硯ヲ改メテ之ニ詩歌等ヲ書シ竹ノ
葉ニ結ヒ尚網其他魚ノ形等ヲ作り添テ高ク掲置
ハ六日ノ朝ヨリ八日ノ朝ニ至ル此日素麵ヲ食ス

十三日

本日ヨリ孟蘭盆會ヲ營々主人ハ麻上下ニテ先ツ菩
提寺ニ參詣シ夕刻迎へ火トテ玄關先ニ於テ亭敷ヲ
焚キ佛檀ニハ野菜果物香茶ヲ供へ迎靈ノ式ヲ
行ヒ又棚廻リト称シ本日ヨリ三日間ニ親族ノ仏檀參
拜ス

十五日

親族知己ニ中元ノ贈物ヲナシ家族僕婢出入者
等ニ金錢物品ヲ與フ

兩親在世スル者ハ生身魂ト称シ魚ヲ呈ス
此夜送り火ト称シ迎火ト同ニ式ヲ行フ

十六日 藥師堂開魔王ノ賽日人々參詣ス

八月朔日

八朔、祝日主人無紋白帷子麻上下着用
十五日

大ナル團子ヲ作り三方ニ數十五ト洗芋トヲ盛り
花生ニ挿シ月ニ供シ知友相會ニテ宴ヲ張ル

九月

九日

重陽ノ節旬本日ヨリ綿入ヲ着ス

十三日

後、月見團子十三個ト枝豆、栗、柿、芋トヲ月供

十月

始、亥、日ヲ亥猪ト称シ炬燵ヲ開ク

十一月

十五日

子女三歳ナルトキハ髪置男子五歳ヲ袴著女子七
歳ヲ帯解ト称シ祝ヲナシ盛装セシメテ鎮守社ニ

詣之親族知已ニ廻礼ニ親族知已ハ互ニ物ヲ贈リテ
之ヲ祝福ニ夜ハ是等ノ人々ヲ會シテ火ニ宴ヲ張ル

十二月
八日

御事始都テ二月ノ御事納ト同ニ
十三日

將軍家御殿ノ御煤拂日ナルヲ以テ此日煤拂ヲ行
フ者多シ又御世チト称スル燒豆腐、胡蘿蔔、芋、田作、
煮染ヲ食膳ニ供スル始トス是ハ歲末年
首各祝日ノ常例トス

廿五日

奉行所御用納主人ハ此夜互ニ同僚ヲ廻礼ニ又下役

同心何レモ其上役ノ宅ヲ廻礼ス上役ニテハ酒肴ヲ饗
ス

廿八日

松飾其他新年ノ設備ヲナス
寒中親族同僚互ニ見舞ノ贈答ヲナシ又歲末ノ贈
答ヲテニ婢僕等ニ金錢物品ヲ給與ス

節分ノ夜大豆ヲ煎リ枱ニ入レ三方ニ載セ間毎ニ於テ
撒豆ヲ為ス終ニ家族一同之ヲ拾ヒ封シテ守袋ニ
納シ其數已ハ歲ニ一ヲ加エタルモノトス又同數ノ豆ト鏝
一文トヲ紙ニ括リ之ヲ以テ身体ヲ拭ヒ厄拂ヒト称ス
世者ニ與テ

(九) 與力家庭日常、行事習慣

主人ハ日夜勤務ニ鞅掌ニ當リ不在勝ナルヲ以テ
妻女ハ専ラ内政ニ當リ朝ハ夙ク起キ夫ノ勤務ノ行
装等ハ準備ヲナシ夜ハ遅ク寐不鎖鑰鑿言火ノ事
ニ從ヒ子女ノ教育ヲ擔任ス家族ノ會食ノ如キ朝
ノ外ハ主人不在ナラバ他ニ食ハ妻女其長トシテ子女
ノ行儀ヲ監督ス

主人不在中妻女ノ最モ注意ヲ要スルハ來客ト贈遣
トナリ若シ之ニ對スル措置ヲ誤ルトキハ主人ノ名與會ヲ
傷ケ役儀ニ障ルコトアラハナリ

男子十四五歳ニ達スレハ元服ト稱シ前髪ヲ剃リ肩上
ケヲ取り正服ノ振袖ヲ止ム而シテ父ハ御番諸役見

習コトヲ出願ス本願ヲ聽許セラルトキハ父ニ對シ奉
行用人ヨリ某同道出頭ス一ニ言ハ通知アリ乃々本人
ハ信ヲ目又ハ染帷子麻上下ニテ侍料履取鍔持
杖箱持ヲ從ヘ父ハ平服ニテ同道出頭ス奉行ヨリ
父願ニ依リ御番諸役無足見習申付ル旨ヲ達セ
ラル終テ父ヲ礼謝ヲ盡ヘ退出直ニ他ニ奉行所至
リ届同僚中ニ廻礼ス同僚中ヨリ祝意ノ贈物
アリ鯉節及赤飯等ヲ以テ答礼ヲナシ僕婢等ニ
祝儀ノ金錢ヲ給ス始テ出立ノ日迄ハ勤務ノ同僚者
及菓子ヲ御食ニ下役ニ贈物ス

娘ヲ嫁ニエントスル者ハ先ク媒酌ヲ以テ親戚ノ
ナシ議定スハ雙方ヨリ各親戚又親戚ノ法許可ヲ受

ケ知耳方ヨリ結納ヲ贈ル先知キ美法ニナレキハ養父ヨ
リ聲ニ贈リ聲ヨリ縁ニ贈ルナリトテ一日ニハ聲
ハ媒酌人ト共ニ媒ノ家ニ至ルニ聲ハ一鉢ニ式ハ夜
ヲ以テ行フヲ例トス其方法ニ家風ノ媒酌ノ意見
ニ依テ種々アリ
女ヲ嫁セトスルトキ父ハ懷劍ヲ授ケ之ハ護身ノ爲ニ
シテ兼テ訓誠ノ意ヲ寓ヌ母ハ鏡及玉簪ヲ授ケ
亦同意義ナリ又聲引手ニ鉢ニ聲ノ劍武具
馬具ノ類ヲ贈ル
里開キト称シ知耳ノ家族親族ヲ媒ノ家ニ迎ヘ媒家
族親族ヲ會シ郷食膳ヲ張ル是兩家々族親族交
際ヲ結テ爲ナリ

死者アリタルトキハ忌服ノ制ニ則リ各忌服届ヲナシ
月代ヲ剃ラス父母ノ忌ニハ日々墓参ヲナス但煩劇ナル
事ヲ務ニ從事スル者ハ奉行ヨリ忌ヲ免シテ特ニ出務
ヲ命セラルコトアリ此場合ニハ早朝勤務ニ障ラサル時
間ニ於テ猶ホ墓参ヲ怠ラス又初七日ノ前夜ハ親族
ヲ會シテ郷食膳ヲナシ當日菩提寺ニ於テ法要ヲ修シ
畢テ郷食膳ノ事アリ五七日後ニ於テ佛前ニ供物ヲ
ナシタル親族知己ニ對シ餅若クハ饅頭ヲ贈ル
葬儀ハ曉ヲ以テ行フヲ例トス故ニ會葬者ニ對シ朝
飯ヲ供ス実無ニ汁八杯豆腐、清汁香ノ物ヲ以テ法
具高ホ葬場ニ於テ白強飯又ハ饅頭ヲ出ス
葬列ハ高張挑灯(火ヲ点ス)位牌香炉(侍)棺

棺側侍扶箱持鏡持舄履取トズ但女子ナレハ鏡ヲ
持タズ次ニ會葬者何レモ麻上下ニテ後歩ス死者女子
ナレハ泣女ト称シ侍婢ノ類四人若クハ六人白衣ニ白布
ヲ冠リ棺側ニ從フ同僚中ハ互ニ下僕ヲレテ葬家
ノ用ニ當ラシムル者ハ此人々ヲ役シテ用ヲ便シ樂丁
ノ外他ヨリ人夫ヲ雇用スルコトナレ是等ノ者ニ對シテ
鳥目三百文或ハ五百文ヲ贈ルヲ例トス
家々ニ天照皇太神宮ヲ祀ル棚ヲ設ケ榊及神酒
ヲ供ヘ朝夕之ヲ拜シ月ノ一日十五日廿八日ニハ特ニ餅
ヲ供フ其他諸神ノ神符ヲモ併セ祀ル
邸内ニ稻荷ノ小祠ヲ設ケ年々日毎ニ餅神酒ヲ供
ヘ祭ル

正月

台所ニ三寶荒神ヲ祀ル是ハ竈ノ神ニシテ殊ニ不潔ヲ忌
マル、モノトシテ崇敬ス若シ不潔ノ事アルハ庖丁ヲ使用
スルトキ誤リテ指ヲ切り或ハ水ヲ汲ムニ際ニ井ニ落ル
等ノ事アリトテ婢僕等恐懼、念ヲ持シ常ニ洒掃ヲ怠
ルコトナク毎月晦日ニハ火掃除ヲナス晦日掃除ト称ス
祖先ノ靈ニ對シテハ佛檀ヲ設ケ家々ノ宗音ニ從ヒ本
尊ヲ置キ過去帳ト唱ユ祖先以來ノ法号俗称死
年月ヲ評記シタルモノ及ヒ位牌ヲ備エ朝夕々余及
飯ヲ供ヘ花ヲ立テ、香ヲ焚キ朝夕礼拝シ正當己心
由ニ獻饌ヲナス
祖先以來ノ年回祭日ニハ豫メ餅若クハ饅頭ヲ親

族ニ配付ニ其前日ニハ菩提寺ヨリ僧ヲ聘シ讀經
回向ニ一統礼拝ニ膳ニ向フ者日ハ寺ニ於テ讀經供
養ニ墓ニ詣リ寺ノ郷食ヲ受ク
出火アルトキハ高張挑灯ヲ灯ニ門内ヲ警戒ニ常
備ニタル階子、者蕃釣瓶龍吐水寺ヲ以テ消防ノ
用意ヲナシ家具、辟維ニ從事ス出火ノ際ニ於ル
服裝主人ハ踏込袴黒羅紗ニ白、紋ヲ縫ヒタル羽
織同胸掛革製冑形頭巾羅紗、綴付夜ハ馬
乘挑灯ヲ携ヘ又赤總ノ十子ヲ持ツ子弟亦之ニ
準ス妻女ハ紋付羽織ニ烏帽子形頭巾ヲ著ス侍
ハ羽織袴陣笠襦袢ハ法被ヲ用エ何レモ主人ノ紋又ハ
谷印ヲ染抜キタルモノナリ

妻女ハ總テ眉ヲ剃リ齒ヲ染メ頭髪ヲ丸鬘ニ結ヒ
帯ヲ太鼓ニ縮メ裾ヲ曳クテ帝トス妻女ハ歳長ケタ
リトモ夫アルトキハ朝夕必ス化粧ニテ口紅ヲ施シ決シテ
素顔ヲ夫ニ見セサルヲ礼トス又婦人ハ羽織ヲ著スル
コトナシ女ニシテ羽織ヲ著スルハ女医又ハ隱居ニタル老
人ニ限リリ所家ノ婦人ハ半纏ト稱スルモノヲ著シ衣服
ノ見苦キヲ覆ヒタルモノアルモ武家ニハ決シテ無キコトナリ
男子ハ普通笠ヲ用ヒタルコトナシ酷暑ノ時ニハ菅ノ一文
字形ヲ被リ隱居又ハ忍ヒ步行ニハ竹蓆又ハ竹製丸
形ナルヲ被リタルモノナリ女子ハ紺張ノ日傘ヲ用エ
防寒トシテ頭巾ヲ用ユルコトモ老人ニ限リタリニモ近時
ハ一般ニ之ヲ用ヒタリ而シテ其製作モ元ハ山岡頭

巾ナリニモ是亦宗十郎頭巾ヲ用ユルコトナリタリ
昔男子ノ風ヲ傳フルニ公務ニ出ル時ハ肩衣ヲ著ケ
皮ノ細袴ヲ穿ケ装束染ノ手拭ヲ冠リ鑓ヲ持
タセタリト謂フ中世ニ至リテハ肩衣袴ハ平袴ヲ用
ユルニ至リ昔鑓ヲ持タルモノハ玄關ニテ鑓改ト云フ
式法アリ之ハ主人ノ出掛ニ際ニ家人鑓ヲ執リテ
主人ノ左袖下ニ出ス主人ハ左ニテ之ヲ握リ右手ニテ鞘
ヲ脱シ中身ヲ檢シ鑓ノナキヲ認メテ可ナリト云ヒ鑓
持ニ渡シテ携エニメタリト云フ

宴會等親族同僚相會スル時ノ如キ其式法正シ
テ制限等決シテ違フコトナク先ツ招待ヲ受ケルハ豫
メ參否ヲ自身ニ又ハ書面ヲ以テ報シ正客ノ誰カ

ヲ問ヒ而シテ其正客ニ就キ服裝ヲ尋ネ必ラス之ト同
ク不婦女ニ於テハ三四回換裝ヲナスモノナレハ殊ニ此点
ニ注意ス

親族同僚間ニ於ケル年始ヨリ歳末ニ至ルニ是暑寒其
他時季ノ存問吉凶ノ慶吊等殷懃ヲ極メタルモノニシテ
又之カ答礼ヲナスニ就テモ皆夫々ノ成例アリテ概ネ之ニ
由ル

男女トモ七歳ニ至ルハ予習師匠ニ通學シ習字ヲナ
サシテ男子ハ又漢籍ノ素讀ヲ學ハシメ其發達ニ隨
ヒ漢儒若クハ湯島聖堂ニ通學セシム

劍術柔術ハ組屋敷地内ニ演技場アリ浪人劍
客桃井春藏及柔術師範栃木藩猶村榮左

衛門出張教授ハ、
創術ハ組屋敷内住居浪人伊藤庄助ノ教授ヲ受ケ
馬術ハ組屋敷内ニ馬場ニ設置アリ浪人鈴木
富之助ノ教授ヲ受ケ
炮術ハ始メ與力仁杉五郎左衛門萩野流ノ炮
術ヲ教授シ死後ハ其高弟與力萩野政七之
ヲ継ク後洋式トナリテ御鑓炮方下曾根金三
郎部下出張教授シ又講武所教授方等出張
與力ヲ小隊長等トシ同心ヲ以テ銃隊ヲ編成シ
調練ヲナシタリ
水練ハ御船手向井將監ノ部下ヲ師トシテ
練習ヲナシタリ

以上各般ノ武技ニ就テハ幕府ノ講武所ヲ設置
セラル、ヤ皆之ニ通シ學ビタリ

(十) 所奉行所引継、顛末

明治元年五月十九日、當番目付ヨリ所奉行宛
テ左ノ如ク申來リタリ

唯今別紙之通り總督府ヨリ御達相成候間其
旨御承知早々其御手練被成候様御達可
申旨丹波守殿被仰聞候依之御達申候

五月

尚委細ノ儀ハ明朝御出殿ノ上丹波守殿ヨリ御
達被成候旨ニ御坐候

府下取締儀御委任被仰付置候處今度
当分江戸鎮台被差置候二付寺社町其勘定三
奉行所并諸記録類明日中悉引渡可申候
事

但奉行義被止候其以下役人者当分是
迄之通出勤被仰付候事

五月

右通火總督存ヨリ被仰出候間諸記録類
引渡方之義早々可取計候尤モ支配向之者
是迄之通相勤候様可申渡候事

二十日林大學頭奉行酒井安房守上石川河内

守所奉行佐久間鑄五郎上加藤丹後守勘定奉行其職

ヲ解カレ三奉行殘御用之儀是迄通取扱候様

可被致旨平岡丹波守申渡此日大目付白

戸石介元所奉行組与力同心身分之儀当

分内進退取扱候様可被致委細之義八石川

河内守佐久間鑄五郎可申談旨平岡丹波守

申渡申

二十一日田安邸詰合白戸石介ヨリ所奉行組與

力佐久間弥太吉張吉田駒次郎秋山久藏大

至急御用之レ有リ面談致度ニ付田安邸一罷

出ハキ旨達アリ即ケ三人出頭ニタル平岡丹波

守差圖ヲ以テ兩所奉行所引継委員ヲ命セ

ラ且明日中トアレハ總督府へ歎願ニ置タル日
迎ニナルハト達セラレタリ同夜佐久間弥太吉宅へ
ハ南組秋山久藏宅へハ北組ノ與力同心ヲ招集
シテ此旨ヲ申達シタリ
二十二日南所奉行所ニ前記ノ委員及年番等
力集ニテ準備ヲ議決セリ即ケ南方佐久間弥
太吉蜂屋熊之助北方秋山久藏三好助右衛
門
ナリ
同日元奉行佐久間鍬五郎ヨリ左ノ書付ヲ渡サル
判事新田三郎ヨリ受取
今般江戸鎮台被差置候ニ付寺社所甚定三奉
行被廢別紙之通被仰付候條諸事是迄之

通可被心得候事

但寺社奉行ハ在寺裁判所所奉行所ハ市
政裁判所甚定奉行所ハ民政裁判所ト
相唱へ可申事

右之趣被仰出候間不洩様可被相觸候事

此日協議ノ上決定ニタル所左ノ如シ

- 一 元奉行ハ今日中家族及家來共引拂ニ付住居
向家來、住居長屋マテ掃除修覆敷云頓スル
コト

- 一 御役所向諸詰所等掃除入念申付諸
器物帳簿ヲ整理シ掛クニ於テ目錄ヲ作り出
ス(キ)コト

- 一 年番方預リ、金銀錢及預ケ金貸附金欠所
金等帳簿ニ引合相改目錄ヲ添テ引渡ス
コト
- 一 奉行手許ノ記録八年番方エ受取引渡ス
コト
- 一 御役所附ノ武器等目錄ヲ作りテ引渡ス
コト
- 一 古來ヨリ兩奉行所ニ傳ヘ來ル紀念物同断
- 一 御役所向及長家ノ繪圖面ヲ引渡スコト
- 一 吟味中ノ者公事ノ銘一件書類取上ル雜物
金銀錢等目錄ヲ添テ引渡スコト
- 一 外役ハ各關係ノ役所及會所等同様ノ手

續ニ及フヘキコト

- 一 町奉行支配囚獄石出帶刀町年寄三人地
割役浪人山田浅右衛門本所道役養生
所医師モ引継クコト
- 一 左衛門在溜ノ囚人ハ掛々ヨリ名簿ヲ出シ帳簿ト
共ニ引継クコト
- 一 小口年番名主ニ引継濟ヲ南役所ヨリ申渡スコ
ト

右ノ通り決定シタルカ茲ニ二個ノ問題ヲ生スルニ至
リ其第一ハ町會所ニ續立アル金ト困初ハ町人
ニ渡シテ其隨意処分ニ任スルノ事第二ハ与力同
心モ此儘出勤ハナセトモ當分ノ内アルハ何時御暇

ヲ申渡サルカ其節ハ住居等モ如何ニ処分セラル
一乎計維キヲ以テ予当ヲ給与スルコトナリ即チ第
一八市ノ財産故市民ト共ニ悉比日引渡スヘキ又此
外政費、御用金トシテ借上タルモノモ亦引渡シテ
御処分ニ委スルコトハ第二ハ古來奉行所ノ塵金
ト稱シ反古紙及不用品ヲ賣却シテ年番方ニ
於テ保管ニ馬人ニ利附金預金トシテ貯ヘ置
キ出火類焼ノ際、予當ニ給シ又ハ奉行ト年
番与カトノ協議ニ依リ臨時ノ支拂等ニ充ルモ數
千金アリ之ヲ該支出ニ充ルモ何等差支ナシトノ
説多ク乃チ其旨ヲ元奉行徳川家ノ當司者工届
出テ引継ノ内ヨリ除キ分配ヲナシタリ

二十三日引継、当日ニ付予カ同心トモ病氣引込ノ外不
殘明六ノ時番所ニ出頭セリ
請取委員トシテ判事新田三郎小笠原唯八土方六一
郎同補西尾遠江介出張ス乃大門ヲ開キ去關前
ニ同心百五十人袴羽織大小ヲ帶シ下座ニテ禮ヲ為
シ去關上ニ與カ三十人見習ノ者ヲ含ム列座ニ元奉
行佐久間鑄五郎式台ニ出迎ヘ名刺ヲ交換シ案
内ニシテハ與カナリト披露ニ委員ハ町崎ニ會釈
シテ道守カレテ設ケノ休息所ニ入ル
次テ佐久間鑄五郎ヨリ支配役五人ノ名前ヲ記シ
ルモノヲ出シテ之カ與カ同心ノ支配役即チ組頭役
ナルコトヲ告ケ尋テ年番役ヨリ引継ノ手續ヲナス

キ旨ヲ告ケ紹介ニ據リ佐久間弥太吉仁杉八右衛門
吉田駒次郎蜂屋熊之助ヨリ總与力同心支配向ノ
名簿ニ一切ノ目錄ト証券類金銀錢ハ大廣蓋ニ
載セテ引渡シ與力同心支配向ノ者ハ夫々ノ扣席ニ
在ル面會アリ度又役所向ハ案内スベシ記録類
ハ多數故各詰所或ハ土藏ニ置附ハ終改メ請取
アリタシト演達シタリ
請取委員ハ一同打揃テ与力同心面會ニ次ニ因獄
次ニ町年寄ト面會シ廣間ニテ支配与力侍坐
同心一同ニ面會シタリ
諸詰所ヨリ土藏マテ案内ニテ諸記録類ヲ示シ其
整頓シ居ルコトヲ賞讃サレタリ又奉行ノ住居ヲモ一覽

サレ是亦修繕ト掃除ノ行届キ居ルコトヲ賞讃セシ奉
行家來ノ住居長家ハ見ルニ及ハスシテ了レリ
是ニ於テ一通リ引継手續ヲ了シ請取委員ハ休
息所ニ戻リ評議ノ上更ニ前記四名ヲ招キ斯ク
多數ノ物品ヲ引継カレ満足テアル今晚ヨリ別ニ留守
居ノ者モ差置カス今日迄ノ如ク都テ保管セラレタシ
明日ニハ主任者ノ御委任アル竹苦ニ付明朝出頭シテ委
細面談スヘシト告ケ退出セラレ佐久間鑄五郎始來
時ノ如ク見送リタリ即チ此顛末ハ田安邸ニ佐久
間鑄五郎出殿シテ重役ニ申陳ヘラレタリ而シテ北奉
行所ニ於テモ今一ノ手續ヲ以テ引継ヲ了シタリ此日
小口年番名主ヘ引継ヲ了シタルコトヲ申渡シタリ

廿四日朝五ツ時土方大一郎南裁判所ニ出頭シ市
政南裁判所主任ヲ命セラレタルコトヲ告ケ且ツ數年
前ヨリ國事ニ奔走シ政事ニ関シテハ何等經驗ナ
ク江戸市政ハ大任テアル示今盡ク補助ニ依ラセ
ハ此大任ヲ全フスルコト能ハサレハ朝廷ノ為腹藏ナ
ク意見ヲ述ヘラレタリト告ラレ是ニ於テ佐久間弥太
吉ハ所奉行所ノ引継ハ昨日之ヲ了シタルモ猶市政
ニ關係アル役所ノ獨立シタルモノアルヲ以テ之カ所分
ヲ了セサレハ後來市政ニ影響郷音スル所少カラサルキ
ヲ建言シタルニ土方氏ハ直ニ鎮台府ニ出頭協議ノ
結果市政裁判所ニ取纏メルコトナリ其役々ノ出頭
ヲ徳川家ニ達セラレシ之カ受取トシテ出役ヲ佐久間

弥太吉ニ命セラレタリ即ケ其役所ハ左ノ如シ

上水屋敷改役所 人足寄場 枳野座 古銅吹所
川船改役所 朱座 材木藏 米藏 金銀座 類

此内金銀座ハ會計官ノ附屬トナリ材木藏
米藏ハ徳川氏ノ願ニ依リ引渡サル

此日ヨリ三日ノ間市民總代トシテ所々ノ名主礼服着
用奉行所ニ出頭毎年寄披露ヲナシテ判事ニ賀
詞ヲ陳ヘ初テ面會ノ式ヲ行ヒタリ是ハ從來所奉
行更迭ノ際ニ於ケル式ニ執リタルモノナリ

是ニ於テ江戸市政ト所奉行所ノ事務一切ノ引
継ヲ了リ都テ旧慣ニ依リ市民ヲ安堵セシメテ而
テ与力同心ニ就テハ左ノ達シアリ

五月廿三日河津伊豆守御渡

白戸石介

佐久間鍬五郎

石川河内守

所奉行組与力同心之輩自今鎮台府附被召
出祿高扶持米等是迄之通被下置候間
此段可相違 御沙汰候事

五月廿三日

右之通

大總督府ヨリ被

仰出候間與力同心共ニ可被申渡候事

今日土方大一郎殿ヨリ渡廿日

母奉行組與力同心之輩自今鎮台府附被召
出祿高扶持米等是迄之通被下置候事

五月廿三日

右ニ付佐久間弥太吉仁杉八右衛門由比萬太郎
蜂屋新五郎吉田忠次郎原弥三郎ハ連署ニ
テ主家ノ城地俸祿等定マラサルニ斯ル恩命ヲ被ル
コト臣子ノ私情トシテ忍フ能ハサルノ故ヲ以テ俸祿ハ
之ヲ主家ニ差出度上目ヲ願出テタルニ土方大一郎ハ其
意ヲ諒トシ之ヲ受ケタリ

願書

今般

王政御一新江戸へ鎮台府御差置相成候

付、私共庸愚、小吏舊來、勤柄被^安思召不圖^モ
市政裁判所附禄高等是迄、通堵被^安仰付
候段非常出格、恩榮奉感荷、拜戴候外無御
座主家ニ於テモ右、恩命維有御受奉申上今
後彌益苦心盡力御奉公相勤可申旨被申論
候得、此上遲疑猶豫、間敷儀奉申上候テ、營
奉拒^ハ朝命候様ニ相當リ候^ハ、主家恭順素
意ニモ相悖リ候儀不學無術、私共燥髮
以來、慣習ニハ御座候得トモ和漢古今、法
律刑書研究モ行届兼不当地市井、情態風
俗精細諳知不仕候得、今般重大

王政御一新、御事務ニ御用ニ可相立様モ無
御座候トモ一同勇決益精勤、心得聊無二念
奉存候處、御座候然ル處舊禄安堵、儀ニ至候
テハ何共以テ恐悚痛心、至リ奉存候目今主家恭
順、実効相立テ城地禄高等追々御取極被
仰付候御趣意ハ厚ク相心得奉拜戴居リ候
ヘトモ主家未タ右、御沙汰ヲモ不被蒙候内私
共、御拔擢ヲ蒙リ舊俸禄安堵仕候段臣子
情誼何共難忍且ツ舊僚、内ニ妻兒家族ヲモ
不顧、米地俸禄ヲ抛棄シ脱籍亡命骸骨ヲ
戰場ニ曝シ候輩モ有之右ハ恐多クモ
王師ニ抗敵仕リ更ニ奉増

天怒主家恭順ノ素意ニモ相悖リ全ク可奉申一
上候様ハ無御座候トモ何レニモ主家ヲ愛念仕候
餘リ過激ノ心得違ニ至リ候次第私共ニ於テ右順逆
嚮北月、岐ニ相昧ニ候疑貳、念ハ毫釐整ニ無御座候
故今日迄モ謹慎盡力御奉公精勤仕來リ候儀ニ
御座候トモ目今上主家ヲ瞻望仕候ハ未タ
天怒全ク不被為 霽旁一ニ、僚友ヲ回顧仕
候ハ心得違トハ乍申頭顱原野ニ狼藉仕リ居
候際ニ當リ非常出格、
恩榮ヲ蒙リ公然自得舊俸祿ヲ保ケ妻孥ヲ養
育仕リ居候儀君臣僚友ノ私情ノ上ニテハ誠ニ以テ愧慙
痛心仕候何卒今般私共改テ頂戴、祿高ハ徳川

毫之助ハ差出ニ是迄累世受ケ來リ候恩誼織芥モ
報酬仕僕微志貫徹仕度右ハ臣子ノ私情ニ出テ候
迄ニ別段奉歎願候テハ虚飾ノ様被

思召、程ニ愧入り候トモ兼テ

御許容不被下置候テハ奉對

朝廷今日猶貳心私念ヲ相狹ニ居リ候様御察
当ヲ奉蒙候テハ猶更多罪、至リ右嫌疑ノ場合後
聞キ儀ニ相當リ候モ難計無餘儀不願恐懼奉
歎願候私共祖先以來清白ノ二字相守リ寒素
赤貧ニ御座候トモ二百餘年ノ餘恩此上奴僕
等迄減省一等質素節儉營養生仕リ候ハ一同
老死仕リ候迄如何様ニカ生活相立テ可申カ勿論

今般上八重キ奉蒙

朝命次ハ厚ク主家、慰諭ヲ受ケ候私共庸愚
魯鈍ノ性ニ御座候トモ此上苦心盡力勉強精
勤仕リ候儀ハ今更申上候迄モ無御座候前条奉
歎願候次第毫末モ難有キ
朝命ヲ奉拒候様 御聴取不被下置猶非常出
格、

御仁惠ヲ以テ御許容被成下今後御奉公、首途
兼テモ諸事無忌諱奉申上候様 厚ク御趣意ヲ
モ奉蒙居リ候故不顧多罪恐懼聊カ無蓄念
右奉歎願候此上
御許容、程偏奉願候以上

慶應四辰年五月

原 弥三郎

吉田忠次郎

蜂屋新五郎

由比万太郎

仁杉八右衛門

佐久間弥太吉

各印書判

小笠原 唯八殿
土方 大一郎殿

北組、與力ハ一統連署ヲ以テ主家、城地祿高ヲ
決定セラレ、追ハ徳川龜之島家臣ヲ以テ召仕ハル
様願出タリ

五月廿五日德川龜之助城地祿高ヲ定メラレタル
ヲ以テ説諭ノ上前記願書ハ下良サレ一統勤務
同年八月東京府ノ設立ニ及ヘリ即チ江戸所奉
行組與力同心ノ名ハ茲ニ全ク其ノ終リヲ告ケタルナ

朝命小笠原忠元

御仁惠ノ以テ御許

御仁惠ノ以テ御許

御仁惠ノ以テ御許

御仁惠ノ以テ御許

御許

160
188

